

第3節 自然と仲よく暮らすまちをつくる

豊かな生態系を育む河川や里山など、現在、残っている自然を保全するだけでなく、それらをつないだ動植物の生息空間を創出し、人と自然がふれあって暮らせるまちをめざします。

1. 自然空間と生態系を守る **重点施策**

今、求められていること

- 私たちには、先人から受け継いだ自然を良好な状態に保ち、将来の世代に引き継ぐ責務があり、動植物の保全に向けた取り組みが求められています。
- 里山などの自然は、動植物の生息地であり、地球温暖化の防止や景観の形成、土砂災害の防止など、多くの面で重要な役割を果たしていることから、保全し、継承していくことが求められています。

取り組みの方向

- 動植物の生息・生育地である里山などの自然空間を保全するとともに、河川や、ため池、公園などの身近な自然を結びつけるなど、生態系を守る取り組みを進めます。
- 貴重な自然空間が残る里山を保全するため、地権者等の協力を得ながら、市民等との協働により、植樹活動の促進や里山ボランティアの育成などの取り組みを進めます。

<主要な取り組み>

- 自然保護に関する啓発
- 野生動植物の保全のための基本方針の策定
- 里山保全活動への支援